

設立第20年度として、グリーン・ツーリズムの取り組みの中で育んできた多様なネットワークやノウハウを活かし、遠野市を主たるフィールドに地域住民のやりがい創出、なりわいづくり等の地域活性化を目指した各種事業を実施し、社会全体の利益増進に寄与することができました。新型コロナウイルスの猛威によって先行きが不透明な状況が長期化していましたが、遠野への来訪を促進させる「withコロナ」の姿勢で「遠野旅の産地直売所」を中心に各種事業に取り組みました。

令和4年度は、①多様な組織や関係者が連携して、地域活性化、農用地の保全管理・活用、地域の農産物等を活用した農業振興、生活支援等の生活扶助といった地域コミュニティ活動を維持・発展させる農村RMO事業②「令和3年度農水省つなぐ棚田遺産」に認定された宮守地域の棚田をフィールドにした地域交流型ファンづくり事業③遠野市観光協会等と連携した遠野型ワーケーションの商品化事業④遠野市と日本航空が協働して関係人口創出や移住者促進を目的にしたモニターの受け入れ及び仕組みづくり事業⑤アフ

ターコロナを見据えた市内誘客、回遊促進に関わる観光振興事業⑥初の花巻市と共同開催企画とした移住者促進に取り掛かりの移住モニターツアーに組み込みました。

12年目となった東日本大震災後方支援は、今までの支援活動で培ってきた沿岸地域のネットワークを活用しつつ、ガイドや震災語り部を組み入れたツアー造成及び販売事業と三陸沿岸の伝統芸能の保存継承の支援事業を中心にしながら沿岸地域の活性化に取り組みしました。

継続事業を着実に実施するとともに、グリーン・ツーリズムの販売所である「遠野旅の産地直売所」の取り組みに重きを置き、継続的かつ発展的な運営をし、再始動に向けた大きな一歩となりました。

年度末に、コロナ禍の取り組みを通じて、更なるグリーン・ツーリズムの推進を図ったことを評価され「オーライ！ニッポン大賞」を受賞しました。



毎年恒例の衛生教育会

2023

新年度を迎えて

会長 菊池新一

2023年度を迎え、コロナもやや一段落の感があります。もちろん油断はできませんが、この春の修学旅行、教育旅行はコロナ前より活発に動き始め、私たちもフル活動をしています。一週間に一度の受け入れを決め、今までもそうしてきました。無理のない受け入れが私たちの取り組みのスタイルです。そのことがむしろお迎えする方々へのホスピタリティにつながると思っております。実際この一か月余り受け入れをしてみてもその通りだったなあと実感しています。

さて、この4月からは遠野市から「とおの物語の館」の指定管理を受けることになり、事務所も一日市の中心市街地に移転しました。この場所ですることがたくさんあると思っております。

旅の産直も駅前から事務所に移転しました。4月からのことであり、まだまだ十分な活動ができておりませんが、やりたいことの夢語りはスタッフ共々つきません。必ずや面白い取り組みを皆さんに提案したいと思っております。

さらに、地域おこし協力隊として新たに角田さんが加わり強力な戦力となっております。博物館の窓口も担当することとなり、とおの物語の館と合わせ4人のスタッフも加わりました。総勢12名のスタッフとなり大所帯です。一丸となって頑張っております。また、インバウンドの状況も活況を呈

しております。また、飛び込みで来られる外国の方が少し増えたように思います。しかし、東北は、ゴールデンルートから、九州や、北海道を経て少し遅れてくると思っております。



4月から管理運営「とおの物語の館」

今年から始まった農林水産省の農村RMO事業に注目しています。遠野でも私どもが事務局となり取り組みを行います。今までの、農泊とは切り口が少し違い、いわゆるまちづくりの総合的視点から取り組みもので、そこには、農業の課題の他に福祉的課題解決の要素が入り、過疎の課題解決が入り、その地区の住民を巻き込み総合的な課題解決に取り組もうとするものです。

私どもは、グリーン・ツーリズムは町を元気にする手段と位置付け取り組んで来ましたが、RMOの事業はその地区を元気にするまた違った視点からの事業で、一緒にできることがたくさんあります。

今年も、それやこれや多忙を極める年となりますが、スタッフ一同新たに頑張ります。新しい事務所にお気軽にお立ち寄りください。

※旅の産直の取り組みはWEBで情報随時公開

2023年度も動き出しています



【とおの物語の館、4月から指定管理スタート】

遠野駅から徒歩8分程度の場所です。『遠野物語』の著者柳田國男の宿泊した高善旅館や城下町としての歴史、文化、民俗などを収集し展示しています。4月より指定管理団体となった当法人としては、グリーン・ツーリズムの実践の中で培った地域活性や旅行業、旅の産直、関係団体の連携、市民と協働の物産・観光情報の発信等を行い、観光振興に寄与してまいります。お気軽にお立ち寄りください。



GWに行った夜神楽の様子

【教育旅行再開！】遠野の里に元気な声が戻ってきました。

5.6月で東北・関東圏の中学生5校の受入を行いました。遠野の受入は「無理をしない受入」「受入が楽しめる農家が参加」「体験よりも体感を大事に」をポイントに行っています。新会員も増えています。一方で体力的に受け入れの回数を減す方もいるのも現状です。この取り組みも17年目。生徒や地域にとり、地域の暮らしぶりを体感する教育旅行を無理なく継続的に続けていくことに努めてまいります。



教育旅行の受入の様子

会員・役員・事務局

○正会員 (40)

青木 辰司 菅原 卓
浅沼 亜希子 高橋 眞
阿部 英之助 立花 功
荒川 栄悦 田村 隆雅
石田 久男 千葉 和
石川 洋 寺川 重俊
江川 幸昌 徳吉 英一郎
小笠原 晋 中島 かおり
奥寺 晴夫 中島 淳
菊池 貴久子 中村 恭香
菊池 孝二 新田 修
菊池 茂勝 新田 勝見
菊池 新一 宮田 勝美
菊池 大司 望月 孝
菊池 千恵子 糠森 隆
菊池 敏行 堀江 清次郎
菊池 瞳 山田 信和
昆 明美 吉野 英岐
佐々木 憲康
佐々木 康行
佐々木 芳夫
白幡 宏

○準会員 (9)

海老 糸子
菊池 登志子
菊池 政洋
齋藤 理恵
下関 一男
鈴木 裕紀子
外館 聖八朗
馬場 明雄
林 輝泰

○サポーター (14)

浅野 良子
岡 律子
加藤 宏泰
川島 亜紀子
菊池 ナヨ
菊池 眞貴子
菊池 恵美
鈴木 寛志
高橋 洋子
沼田 政子
平塚 明
山本 マキ子
渡邊 和寛
伊藤 由紀子

○役員

会長 菊池 新一
副会長 新田 勝見
徳吉 英一郎
理事 糠森 隆
荒川 栄悦
菊池 茂勝
浅沼 亜希子
奥寺 晴夫
小笠原 晋
菅原 卓
佐々木 憲康
菊池 貴久子
監事 菊池 千恵子
佐々木 康行

○事務局スタッフ

菊池 新一
小笠原 晋
田村 隆雅
桑畑 学
琴畑 節子
菊池 佳菜江
菊池 朝美
角田 静花
大洞 幸江
佐々木 正子
多田 江利子
菅田 順子

計12名
※2023年5月末現在



遠野の旬の旅を随時販売中
遠野旅産直



2022年度を写真で振り返る

コロナ禍とはいえ、個人旅行や教育旅行、視察研修など遠野に多くの方々を訪れた1年でした。また、様々な取り組みに挑んだ1年でもありました。

【農水省 RMO 事業】 地域の知恵と経験を地域の元気へ

RMO (Region Management Organization) 事業とは、地域で暮らす人々が中心となって地域課題の解決に向けた取組を持続的に実践することです。今年度から土淵町の地域づくりの関連組織の方々と協働して、農地、地域資源活用、生活をテーマに、地域の方々が元気になるプロジェクトを開始。

2022年度は、延べ100名近くの方々と意見を交わしました。それを土台に計画を作り、2023年度から実証事業です。



土淵町の風景

【おためし移住ツアー】 花巻・遠野市共同事業初開催！好評！

いわて花巻・遠野おためし移住モニターツアーは、花巻市か遠野市に移住を希望する全国の方々と対象に清秋と厳冬の時期に計2回開催しました。2泊3日各10名定員で、将来的に移住をイメージできるように、地域の魅力を感じられる名所や農家民宿などの生活体験を通して暮らしぶりを体感していただきました。そして、移住者宅の訪問や地域住民・移住者との交流の機会も作りました。移住する気持ちを後押しする企画となりました。



移住者宅訪問の様子

【ビールの里とコラボ】「ビアワーケーション」「ホップサイクリング」

ホップ畑の見学や農家レストランでクラフトビールを味わう「遠野里山ホップサイクリング」は40名近い参加で好評です。ツアー代金の一部を遠野市のホップに係る取り組みへ寄付させていただきました。また、市内のテレワークできる場所や宿と旅産直のプログラムを組み合わせ、遠野産ビールを味わう等の企画「ビアワーケーション」を遠野市観光協会と協働で実施しています。多様な協働事業で遠野を盛り上げます。



ビアワーケーションの様子

【いわてグリーン・ツーリズムカレッジ】 県内の実践者の学び場

岩手県内のグリーン・ツーリズム実践者向けの研修会を岩手県より委託を受けて11月～1月まで6回実施しました。地域資源の活用、体験インストラクター、インバウンド対応、安全管理、起業、事業計画づくりを主なテーマにして、延べ100名の方が参加しました。昨年度の同研修会修了生のLine遠野の菊池大司さんからの事例紹介をしていただくなど実践に寄り添った研修企画は来年度も続きます。



ワークショップの様子

【地域おこし協力隊】

令和5年4月から当団体へ地域おこし協力隊として着任の角田静花(かくたしずか)さん。雫石出身で、首都圏で会社勤務を経て、グリーン・ツーリズムのコーディネーターに憧れ、キャンプ場を夫婦で経営することが夢と遠野へ移住しました。早速インバウンド対応や企画づくりなど実践経験を積んでいます。



写真中央：ウェルカムボードを持つ角田さん

【オーライ！ニッポン大賞 授賞】

20年来の生きがいと生業づくり、地域住民がこのまちに住む誇りを醸造するためなど、グリーン・ツーリズムを通じた地域づくりやコロナ禍を通して新たな取り組みへとGTを発展させてことが評価され、「2023年度オーライ！ニッポン大賞」を授賞いたしました。



【ふるさと納税】 遠野旅の産直旅行券 返礼品として出品中！！

遠野旅の産地直売所で取り扱っている「すべての旅の商品」で使用することができる「遠野旅の産地直売所旅行券」を作成しました。作成に際しては、株式会社BrewGoodや遠野ふるさと商社、遠野市の協力を得ました。楽天やふるさとチョイス(QRコードからWEBサイト)を見てみてください。



【JICA グローカルプロジェクト】

JICA 海外協力隊合格者が事前の地域実習として日本国内の地域づくりから実践を学ぶ活動「JICA 海外協力隊グローバルプログラム」。実習期間は3ヶ月。当団体には、滋賀県から大畑汀(おおはたなぎさ)さんが令和5年4月から3ヶ月間実習に来ています。赴任地で青少年活動に関わることから教育旅行の対応や地元の小中学生と交流する機会を得ることになります。



小中学生と田植え体験

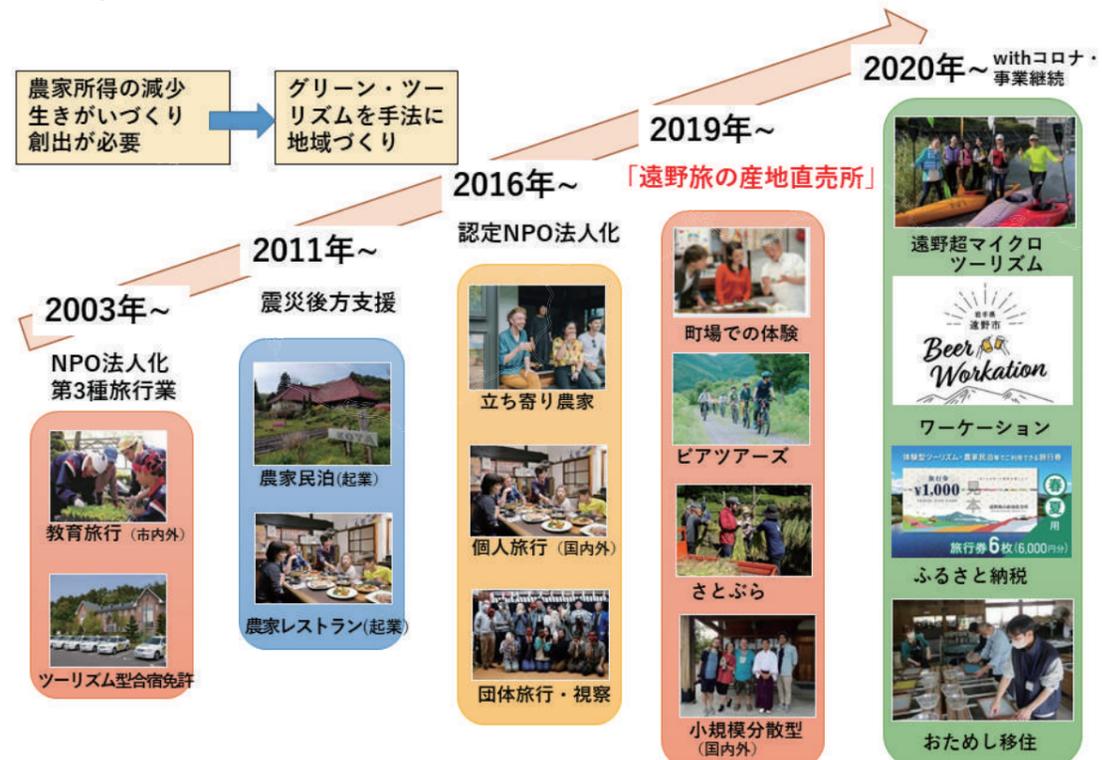
【棚田 fun ファンクラブ】

農水省つなぐ棚田遺産に認定されている遠野市宮守町にある棚田を舞台にした交流事業や米作り体験、コースごとに物産品を送るなどを内容にした2年目となるファンクラブ企画がスタートしました。詳細はWEBサイトへ。



【遠野山・里・暮らしネットワーク 20年の歩み】

GTのメニューの変遷、受け入れ者数10,000人程(2005年度(教育旅行開始)対比 4倍増)



2022年度を数字で振り返る

- 遠野民泊協会 … 104軒(±0)
- 農村型ワーキングホリデー … 参加：14人/日(+13)、受け入れ：2軒(▲1)
- 遠野ドライビングスクール … 合宿生参加者：535人(▲51) 内GT体験者数212人(+136)
- GT体験者数 … 延べ586人(+222) 内外国人6人(+5)
 - 内体験型教育旅行 … 民泊校数：9校(大学ゼミ含む)(+6)、生徒数：延べ361人(+209)
- 東北ツーリズム大学 … 実施回数：1回(±0)、参加者：延べ50人(▲50)
- 被災地のコミュニティ作りのための大学生来訪：延べ150人 校数1校(公営住宅での交流会、海岸清掃、住宅の周りの環境整備)
- 視察受け入れ回数 … 31回(+17)(事務所等での講話を主な内容にした対応の回数)
- メディア掲載回数 … 16回(+5)

※()は前年度対比

編集後記 スタッフの声

令和5年度は、コロナ禍前以上に多くの方が堰を切ったようにグリーン・ツーリズムを体験しに遠野に来訪しています。有難いことです。8月5～6日の土日2日間に岩手銀河プラザ(東京銀座)でanecoデーという物産イベントが遠野をテーマに実施します。遠野らしい商品の他に、オンラインツアーも実施、来場お待ちしております。(田村)

